



【第2回学校運営協議会】

令和元年10月28日（月）に第2回学校運営協議会を開催しました。

全体協議会では、これまで行われた各ワーキング・グループの取り組み状況について報告があり、それについての意見交換が行われました。後半は前半の意見交換をふまえて各ワーキング・グループ毎に協議していただきました。今後は、各ワーキング・グループで再度協議を行い、次年度への提案とともに課題の指摘もお願いしました。それをふまえて次年度の取り組み内容を学校で協議し、第3回学校運営協議会で報告することなどを申し合わせました。なお、第3回学校運営協議会は令和2年2月14日（金）14:30～16:30に実施する予定となりました。

令和元年度 秋田県立矢島高等学校 第2回学校運営協議会議事録

1 日時・場所

令和元年10月28日(月) 午後2時から午後4時まで
矢島高等学校 大会議室

2 出席者

(1) 運営委員

大井 建史 【天寿酒造株式会社代表取締役社長】
佐々木正純 【元矢島中学校PTA会長、法華宗寿慶寺住職】
松田 訓 【本海獅子舞番楽伝承者協議会会長、矢島高等学校同窓会前会長】
佐藤 晃一 【由利本荘市教委CS協働コーディネーター、元矢島総合支所長】
真坂 伸子 【矢島保育園園長】
小松 茂樹 【矢島高等学校同窓会顧問】
菅原 賢一 【矢島小支援地域本部コーディネーター】
茂木 好文 【矢島高等学校同窓会長】
藤原 茂樹 【矢島高等学校PTA会長】
藤井 充晴 【矢島中学校教頭】
熊澤 耕生 【矢島高等学校長】

※ 庄司嘉政委員、佐藤眞理子委員、茂木雅人委員は欠席

(2) 教育庁

佐藤 一喜 【秋田県教育委員会 CSアドバイザー】

(3) 矢島高等学校 [事務局]

木村実樹夫 【教頭】
高田宇一郎 【事務長】
石澤 宏基 【教諭】
木村ふさ子 【教諭】
鎌田 勉 【教諭】
菅原 一哉 【教諭】
土田 伸也 【教諭】
渡邊 舞子 【実習助手】

3 次第

(1) 開会 (事務局 教頭)

(2) 学校運営協議会会長あいさつ (大井会長)

第2回学校運営協議会ということではありますが、なかなか難しい問題だなという感想を校長先生、教頭先生にも打ち合わせの際にお話した。こうすれば良いという理想的な答え

が見えないこと、どこを求めたらよいか、明確に見えないけど何かを認めないと今後につながるというところがあると思う。ワーキング・グループに分かれて作業していただいているが、絞り込みを各グループが苦勞されていると思う。全体協議では、それぞれのグループが何をやっているのかという共通の認識を持ち、他のグループからの意見による新しい切り口を感じていただくといったような協議ができればいいと思うのでよろしく願いしたい。

(3) 校長あいさつ

委員の皆様、本日はご出席いただきありがとうございます。また、本校の教育活動に御理解御協力いただきありがとうございます。さきほど試食いただいたのは、本校矢島ブランディングプロジェクトで昨年挑戦した豆腐の味噌漬けのバージョンアップを図っているもので、どういう配合にすればベストの味になるか生徒たちは探っているところである。矢島の産業文化祭でも一般の方に試食していただき意見をいただいたところだが、委員の皆さんにもお願いしたい。

1回目の学校運営協議会が6/11であったが、その後各ワーキング・グループに分かれて、話し合いであったり生徒の活動の様子を視察いただいた。本日は前半、各ワーキング・グループの内容や取り組み状況について本校の担当から報告し、それについての全体での意見交換となる。大井会長の挨拶にもありました他のワーキング・グループから見ての違った切り口を得ることができれば良いと思う。後半は、前半の意見交換をふまえて各ワーキング・グループに分かれての協議である。今日の内容をふまえて各ワーキング・グループで再度協議していただいたものを提出いただき、次年度どういうことをするかというものを、次の運営協議会まで本校がまとめるということになる。活発な意見交換をお願いしたい。

当初の予定では、第七次秋田県高等学校整備計画後期計画の素案を確認する予定だったが、公表時期がずれ込んでいるということで今日はできない。今後県のホームページで公開され、議会でも取り上げられることと思う。印刷したものが入手でき次第、委員の皆さんに郵送したいと考えている。

学校は特に大きな事故も無く、ここまで来ている。一回目の運営協議会以降、学校行事は体育祭、中高連携の鳥海山登山、矢高祭を行った。今年は中高連携10周年にあたり、中高連携に関わる展示を中学校と協力し、両校の学校祭において展示した。また、連携当初の記念式典の準備風景等を収めた写真データをスライドショーで流したりした。10月16日には大井会長より中高生全員が集まっての中高連携記念講演会を開催した。ご多忙の中引き受けていただき感謝申し上げたい。これからの学校行事は、11月に芸術鑑賞教室を予定している。本校は3年に1回開催しているが、今年度は鳥海の「まいーれ」で行われる11月の定期公演を全校で鑑賞する。松田委員のお力添えで本校の地域学で取り組んでいる坂之下番楽を演目に加えていただくことができた。本校の生徒会長となった梶原裕也くんも演者の一人として舞台にあがる予定である。

教育活動のなかでは、地域創造コースのビジネス系列が課題研究で取り組んでいる矢島ブランディングプロジェクトの発表が東北大会に出場することができた。昨年度は秋田県

高等学校産業教育フェアにおいて課題研究部門の最優秀賞をいただくことができたが、今年の七月に開催された秋田県生徒商業研究発表大会で準優勝となり、8月24日に山形市で開催された東北6県の代表からなる研究発表大会に出場した。12校出場の東北大会はレベルが高く、残念ながら上位大会への出場は叶わなかった。生徒たちは堂々と発表していた。本校が東北大会に出場するのは、平成21年のバドミントン大会以来となる。約10年ぶりということで非常にうれしいことであった。

今年度は学校案内を一新した。新たにビジネス系と福祉系の内容に特化した補助資料を入れ配った。またポスターサイズにして各中学校のクラス分を配付し、掲示をお願いした。中学校の高校説明会とは別に、私も各中学校を訪問しビジネスと福祉の取り組み内容をPRしたところだった。ご覧になっていただきご意見等あればお願いしたい。

最後に3年生の就職の内定状況についてだが、県内就職で内定いただいているのは13名。県外就職は5名内定。また、自衛隊志望者が3名いて1次試験を通過している。委員の皆様には面接の御指導をいただき、ありがとうございました。

以上、学校の様子についてお話ししました。本日は活発な協議をよろしく申し上げます。

(4) 出席者紹介

(5) 協議（進行 大井会長）

WG1 協議について報告：石澤教諭

WG2 協議について報告：菅原教諭、土田教諭

WG3 協議について報告：木村教諭

※資料「ワーキング・グループ取り組み状況及び協議報告」

全体の協議内容は、「4 議事録」のとおり

第3回学校運営協議会の内容について：熊澤校長

12月末をめどに、各ワーキング・グループの協議内容を提出いただきたい。今年度取り組んでみての課題があるかと思うので、次年度への提案とともに課題の指摘もお願いしたい。それをふまえて次年度の取り組み内容を学校で協議し、第3回運営協議会で報告する。

1月中に運営協議会の運営についてのアンケートを送付するので回答をお願いしたい。学校評価の集計結果・分析を1月中に送付するので、ご意見ご提言をお願いしたい。

(6) 秋田県教育委員会CSアドバイザーより

会長さんのお話のなかで、皆が共有できる目標がなかなか難しいとあったが、これをやればコミュニティ・スクールだとかこれをやれば必ず効果がでるということはどこにもない。それぞれの学校が置かれている立場も地域も違う。ただやはり目指す目標を共有しなければならぬというのはある。それが学校が目指す方向性、教育目標、子供たちをこう

して育てたいという子供像である。それに向かって今様々なことをやっているということ
を共有しなければならない。ワーキンググループのボランティアの課題があったが、ボラ
ンティアの意義だとか生徒がどう感じて取り組んでいるかというところは、目指す子供像
のなかに地域を知るだとか大人との交流を図っていくことによって、子供たちは成長する
ということを見いだしていくことができる。ボランティア、地域学も向かっていくところ
は、矢島という地域に向けて取り組んでいるということも共有してもらえばよい。

先日、ゆり支援学校において県の生涯学習センターが模擬熟議を行った。模擬熟議の最
後には、地域に誇りを持つだとか自分に自信を持てるような子供、地域のために何かやっ
てくれる子供に育てたいといったものが必ず出てくる。そういう目標を共有することによ
って、やり方はいろいろな道を通るかもしれないが、あの山に行くんだという目標が共有
されていれば必ずいろいろな取り組みが結びついてくると思う。焦る必要はなく、学校
運営協議会やワーキング・グループの中でいろいろな意見が出てくるので、ひとつひとつ
課題を克服することによってその年の目標が見えてくると思う。

今日の新聞で地域運営学校が急拡大という記事があった。どんどん広がっているが、県
立学校も4校に設置された。去年から始まったゆり支援、矢島高校は順調に進んでいると
いうように生涯学習課、高校教育課でも評価していると思う。高校教育課は4校の効果を
確認してから広げていくかを考えているとのことである。国は努力義務としているので、
どんどん設置が進んでいくのではと思う。毎週日曜日の魁新聞に出ている高校生の仕事力
という記事は、東北管内で行われている各校の取り組みが紹介されている。これを見てい
ると地域の特産に関心を持って学習していることは地域の方々の力になり、地域の活性化
に結びついていると感じる。国では持続可能な地域づくりというものを推進している。高
齢化・少子化が進むと次の世代の子供たちが関わらないと地域が持続出来ないということ
である。大切なキーワードになると思う。そのためには高校生が自ら地域のことを学ばな
ければならないし、我々が生きていくこの地域をどう創っていくかということと大人と一
緒になって学んでいく必要がある。学習指導要領が変わり、よりよい学校教育を通じてよ
りよい社会を創るというフレーズを目標にしようと国は言っている。学校教育が物事を学
ぶだけでなく、よりよい社会づくりのために使われていくことが謳われているので、これ
からは学校と地域が連携していかないと持続可能な地域になっていかないと感じている。

(7) 諸連絡

①第3回学校運営協議会の日程について（事務局 教頭）

令和2年2月14日（金）14：30～16：30に実施予定

懇親会も17：30から予定

(8) 閉会（事務局 教頭）

4 議事録

WG 1 について

【熊澤校長】 補足

4 ページの「御提言を受けて」の3の最後のところですが、中学校でも矢島でボランティアをする意義というものを指導されているかと思うが、高校の教育は小中での教育内容の土台の上にさらに高校があるというかたちである。ワーキング・グループで議論を深めるために中学校でどういうことをやっているかということをお教えいただければ、それにつなげて高校ではどういうことをやっていると考える材料、ヒントになると思うので、ワーキング・グループで協議いただきたい。そういう意図の文章です。

【大井会長】

この活動のなかで、なぜボランティアかというのが問われなければいけないと思う。社会人になるためにボランティアというものがいかに大切かというのは重要であると思うが、生徒数が減ってきている中でさらにボランティアを続ける理由を確認しながら進めていくべきだと思う。今までやってきた3つのグループがあるが、数が減ってきた場合そのまま維持するのは難しいと思う。そういうことも考えていかないと現状的に厳しくなると思うし、ここにぐっと集まると他の部分が厳しくなるし、いろいろ状況が考えられる。こうしたことも今後検討するうえで重要であると思う。

WG 2 について

特になし

WG 3 について

【熊澤校長】

定期公演の演目が最終的に決まるまでに時間がかかった。最初に館長さんに連絡したのは7月の末だった。大丈夫だという返事がくるまで2ヶ月くらいかかった。年度初めに年間計画に入れるのは厳しいかもしれない。含みを持たせて、確定した段階で入れるというかたちになると思う。

【松田委員】

相手がいることなので、辞退する場合もあるようだ。それで時間がかかるのだと思う。いつやるかというのが決まると出演団体と調整がしやすいと思われる。

【熊澤校長】

調整が大変だということはわかった。

【松田委員】

市バスの利用も規制が厳しい。毎年実施するという定期的なかたちだと利用の継続が可能かもしれない。今年実施して来年やらない、再来年また実施するとなった場合どうなるかとなると難しいかもしれない。

【佐藤一喜アドバイザー】

今回は、地域の高校生が番楽に出演し、その定期公演を矢島高校生に見せたいと要望があつて、教育学習課が必要な事業と判断しバス利用の許可がおりた。例えば、鳥海ダムというのは地域の大きな事業である。地域の子供たちに学習させる機会を与える必要があると矢島支所や教育学習課が判断すれば、学習するツアーといった事業ができる。矢島高校から矢島支所建設課や鳥海支所にダムの学習を実施したいということを伝えれば事業としてバス利用の許可がおりるかもしれない。

【松田委員】

いろいろなケースがあると思うが、矢島高校は坂之下から番楽を習って活動しており、今回の定期公演鑑賞が認められたと思う。坂之下から習っていなければ不可能だったかもしれない。

【佐藤一喜アドバイザー】

学校独自に何かを実施したいというのではなく、学校運営協議会のなかでこういう学習も必要だと意見が出て、市の関係機関が動くという流れがある。これがコミュニティー・スクールのいいところ、活用だと思う。

【松田委員】

今、子供たちに地域の番楽を理解してもらわないと、有形文化財が消えてしまうのではという危惧がある。今回の公演は坂之下のほか、国指定根子番楽、山形の真室川から平枝番楽である。

【大井会長】

どのワーキンググループにおいても、いかに参加して活動する生徒がいかに地元に対する思いを持ってもらうかということが重要だ。そのためにどういうやり方がよいのかという検討だと思う。

予定より早いですが、協議はここまでとしたい。休憩後、ワーキンググループの協議に入ります。ありがとうございました。

※資料「ワーキング・グループ取り組み状況及び協議報告」

令和元年度 秋田県立矢島高等学校
第2回学校運営協議会

ワーキング・グループ取り組み状況及び協議報告

令和元年10月28日

各WGの協議内容等について

秋田県立矢島高等学校

1. 昨年度の各WGの協議内容を踏まえた今年度の取り組み状況について

【WG1】

①「生徒数減少」と「教員数減少」という現状があり、新たな活動を増やすのではなく、「今やっていることを深化させる」方向にもっていくべき。

→*全校規模（学校行事）、学年規模（総学・地域学）、有志（ボランティア部、生徒会等）等の様々な形態毎にこれまでの取組を整理し、内容を検討する。

→各方面のご協力をいただきながら、身の丈にあった行事、授業、ボランティア活動に 取り組んでいる。下半期も身の丈にあった活動を行いながら一部の生徒に負担とならないように、そして目的や意義等をしっかりと学習し取り組んでいく。

②本校の地域ボランティア活動については、もっと宣伝してよい。HPの大幅リニューアルは評価できる。

→*本校のボランティア活動の年間計画を作成する。年度初めに町内会長の集まるような場で、学校運営協議会から配布してもらえればありがたい。

→6月の町内会長・行政協力員会議にて計画表を配布し完了した。

*HPの更新については、ボランティアや学校行事の実施時期とリンクするようにあらかじめ計画しておき、ボランティア以外の内容も含めて更新回数増加と内容の充実を図り、広報活動を充実させる。

→計画どおりに更新を行っている。

【WG2】

①現在「地域学」で行っている「地域就業体験」と通常のインターンシップとの差別化をどう図るか。

→*「地域就業体験」のもともとの趣旨である「地域で働く人々の思いを聞く」に立ち返り、次年度の1年生から実施する「総合的な探究の時間」の中の「地域の大人に話を聞く（仮）」に統合する。1年次での実施もありうる。

※新学習指導要領（2022年度から）において「総合的な学習の時間」が「総合的な探究の時間」に変わることを受けて、従来の「総合的な学習の時間（鳥海総合）」（1～3年次）と「地域学」（2年次）の内容を統合して「総合的な探究の時間（名称未定）」（1～3年次）とする。現在カリキュラムを作成中。

※「総探」は移行措置として平成31年度新入生から開始。現行の「地域学」は現在の1年生が次年度に履修し、それが最後となる。

→WG2の話し合いを参考に職員で検討を行い第3回学校運営委員会で報告したい。

②「地域を思う人を知る」をもっと充実させたい

→*今年度は2回（「天寿」代表取締役社長、「本荘ハムフライ ハム民の会」代表）だったが、更に回数を増やしたい。

*講話をしてくれる人の候補についての情報を、学校運営協議会からもいただきたい。

→「総合的な探究の時間」の中でどう充実させていくのか今後の課題であるが、令和元年度も11月に「本荘ハムフライ ハム民の会」代表と「株式会社ツバサ」代表の2回行う予定である。

③YBP（やしまブランディングプロジェクト）をもっと充実させたい

→*地元とのコラボが不可欠。商品開発で依頼する企業や農家の情報についてCSの情報網を活用したい。学校運営協議会からも情報提供いただければありがたい。

*「鳥海ダムカレー」については検討してみたい。

*ビジネス系列の生徒の授業の一環であるので、メインの活動に繋がる内容の授業時数を確保し、授業内容を充実させるとともに、土台となる地域理解の学習（「総合的な探究の時間」等）とリンクさせ、一過性の活動で終わらないようにする。

*YBPを含むビジネス系列の教育内容を中学校側へきちんとPRする（福祉系列も）。

→学校案内にYBPの今までの取組を紹介、フェイスブックのQRコードを掲載した。

→学校ホームページでYBPの取組について紹介した。

→商品開発について、地元の企業とコラボレーションした商品を現在試作中である。

→7月29日（月）高校説明会（体験入学）で、YBPが秋田県高等学校生徒商業研究発表大会で準優勝した内容をプレゼンテーションした。また、YBPが開発した商品をプレゼントした。

*フェイスブックのアドレスのQRコードを「日新」等に掲載できないか。

→今年度発行の「日新」第188号～191号（4月～10月現在）にQRコードを掲載した。

→7月発行のPTA会報「矢城」にQRコードを掲載した。

④「八朔祭」と関わりをもてないか

→*【WG1】①の内容を考慮し、参加は見送りたい。現在行っているボランティアの充実を力をつけたい。

【WG3】

①「番楽」についての学習を充実させたい

→*生徒、職員に本物を見せるために「まいーれ」を活用したいが、公演は休日のみなので日程調整が課題となる。「出校日となる休日（PTA総会等）に実施」「土日を出校日として授業と番楽見学を行い、月曜日を振休とする」等の形態を検討。

*鳥海教育学習課が窓口になってくれる。候補日を伝えれば、その日に公演可能かどうかを各団体に問い合わせしてくれる（1/29（火）「まいーれ」運営協議会の席で確認）。

→「まいーれ」で11月17日（日）に行われる講演を鑑賞することが決定した。坂之下番楽の演目があるということで、今年度実施予定の芸術鑑賞教室も兼ね、全校生徒が参加する。展示物も見学する。バスは鳥海教育学習課とまいーれにご尽力頂き、2台手配できる予定である。

*「総合的な探究の時間」の課題研究のテーマの一つとして検討する。全体を対象とした学習を行った後に、課題として選択したグループが、矢高祭等で演舞発表を行う。

他にも次のような内容が考えられる。

- ・衣装や面等のデザイン（高校生の感覚で）
- ・番楽の魅力の発信

→地域学を学習している2年生25名が、学校祭で坂ノ下番楽を発表した。

②鳥海ダムについての学習を取り入れてはどうか

→*来年度、可能であれば国交省の担当者による招聘講話を開催する。学校運営協議会に交渉窓口をお願いしたい。

*「総合的な探究の時間」の課題研究のテーマの一つとして検討する。

→矢教研の職員研修が8月に実施された。今後、生徒向けにも講話を依頼するか検討中である。

③地域学習の際に必要なバスの手配について

→*学校運営協議会から市教委にバス借用の交渉をしていただきたい。

学校運営協議会 WG1 協議報告

○第2回WG1協議会

開催日時：令和元年（2019年）7月31日（水）午後1時～2時

開催場所：秋田県立矢島高等学校 1階 応接室

参加者：菅原賢一委員（WG1代表・矢島芸文協会会長）、真坂伸子委員（矢島保育園長）
小松茂樹委員（拓道同窓会顧問）、佐々木正純委員（やしま調剤薬局・寿慶寺）
藤井充晴委員（矢島中教頭）※WG1委員5名は全員出席。
石澤宏基、辻由紀子、佐藤俊治、黒木育子 ※尾留川・鎌田先生は出張欠席

1. すでに実施終了したボランティア活動の報告（石澤より～別紙資料を参照）

(1) **3月9日：由利本荘ひな街道「矢島ひなめぐり」全校ボランティア**

会場：矢島町内9カ所のお雛さま展示会場

(2) **5月25日：第10回 鳥海高原菜の花まつりボランティア**

会場：矢島町桃野（南由利原高原）菜の花畑

(3) **5月29日：由利高原鉄道「花街道」駅前花壇の播種ボランティア**

会場：由利高原鉄道・矢島駅前花壇（天寿酒造となり）

(4) **6月1日：矢島地域「敬老会」ボランティア**

会場：矢島体育センター（旧矢島町青少年ホーム）

(5) **6月4日：矢島小学校ひまわりプロジェクトボランティア**

会場：由利本荘市立矢島小学校前（矢島高校旧校舎跡地）

【追記】2学期に実施 → (6) **9月10日：寿康苑サロンボランティア**

会場：矢島老人福祉センター寿康苑

予定 (7) **10月27日：矢島産業文化祭ボランティア**

会場：日新館および屋内運動場

2. **矢島カップMt.鳥海バイシクルクラシック大会ボランティア**視察結果（意見交換）

開催日時：令和元年（2019年）7月28日（日）7時～16時

開催場所：男子ボランティア → 鳥海山4合目の善神給水所（※善神沼の手前）

自転車レーサー1,400台へ給水、給水カップ回収等

女子ボランティア → スタート地点：スタート業務の補助、

日新館テントおよびホール：表彰式の会場準備や補助



【善神給水所（4合目）で給水する矢島中高生】

【日新館ホール・ステージで表彰式を手伝う矢高生】

矢島カップ Mt. 鳥海バイシクルクラシック大会視察後の御提言

- 提言1. スタート地点のプラカード担当業務で、矢島高校のボランティア生徒も、名前を紹介コールしてもらうこと（真坂委員より）。
- 提言2. 矢島高校生によるボランティア活動の地域住民に対する、認知度を高める手立て（宣伝等）を考案すること（佐々木委員より）。
- 提言3. ボランティア活動を宣伝すべき対象として、来年の受験生＝現在の中学3年生をターゲットとし、来年の受験生増加をはかること（小松委員より）。
- 提言4. ボランティア活動中、「やらされている」感のある生徒がいる。生徒に「ここ矢島地域でボランティアをする」意義を理解させる（藤井委員より）。

【御提言を受けて ～ 今後の改善方法について】

1. 矢島カップ担当総括である矢島総合支所産業課（佐藤健一課長）に相談し、次年度への申し送りとして、スタート係に「矢島高校生の紹介コール」をお願いする。
 2. 学校ホームページだけでなく、SNS（facebook、twitter、Instagram等）による宣伝も検討し、現在の中学3年生を意識して本校ボランティア活動を広報してゆく。
 3. ボランティアの事前指導にて「矢島」地域アイデンティティを強く意識させる指導を行い、地域の中で自分たち矢島高校生が担っている役割を認識させる。その際は自己肯定感を得られるよう学年部・部活動・生徒会担当職員全体で指導する。また、参考にしたいので、中学校での指導内容について教えていただければありがたい。
- なお、1については、矢島総合支所OBでもある**菅原賢一委員**の助力を得て、佐藤課長および清水支所長に依頼したい。SNS広報は、すでにfacebookが運用中であるが、管理職と校内情報委員会に相談しながら、推進していきたいと考える。

【文責：石澤宏基】

学校運営協議会 WG2 協議報告

WG2メンバー 委員：庄司委員（WG2委員長）、大井委員、佐藤委員
職員：菅原、土田、菅谷、靱山、大井、佐藤文

a) 総合的な探求の時間「鳥海探求」について

- ・ R2年度の2年生の「1学期以降の体験活動」の内容の検討
 - 1) 舞／お囃子（番楽） 2) ひなめぐりガイド作成 3) ジオパークガイド養成
- の3つのコースに分かれて活動予定。

○第2回WG2協議会（7/30）のまとめ

参加者 委員：庄司委員、大井委員、佐藤委員
職員：菅原、土田、菅谷（靱山：三者面談）（大井：職免）（佐藤文：年次）

- 1) 舞／お囃子については基本的に現在の活動を踏襲し、改善すべき点を探る。
- 2) ひなめぐりガイド作成については、より幅広く矢島町、ひなめぐりの歴史を学習した上で、自分達でガイドを作成する。
- 3) ジオパークガイド養成については、正式なガイド資格は取得が困難なので、学校独自に鳥海山に関する資格のようなものを設ける。鳥海山に関する話を聞き、知識を深める。

○第3回WG協議会（9/9）のまとめ

参加者 委員：庄司委員（欠席）、大井委員、佐藤委員（欠席）
職員：菅原、土田、菅谷、靱山、大井、（佐藤文：3年部対応）

- 1) 舞／お囃子については現在の活動を踏襲するが、人数確保（生徒・指導者）が課題。矢高祭の発表などで3年生に協力を仰ぐとすれば、3年生の総学の内容調整も必要。
- 2) ひなめぐりガイド作成については、由利本荘のひなめぐりの企画に関わった会津志乃さん（由利地域振興局福祉環境部）と三原ゆき子さん（由利本荘市教育委員会文化科）を招いてこのコースの生徒に由利本荘地区でひなめぐりを行おうと思ったきっかけなどについて講演していただき、それを聞いたあとで実際ひなめぐりの会場となっている施設や、ひなめぐりのコースの視察など現地調査も取り入れガイド作成を行う。
- 3) ジオパークガイド養成については、正式なジオガイド資格（鳥海山・飛島）の取得は年10回程度の講習会への参加や試験などが必須で高校生の取得はなかなか困難。鳥海山のことに絞って学習する形が良い。大井委員や石澤先生が所属する鳥海山の会が発行している鳥海山についてまとめた冊子（地理、信仰、歴史、生活など）などをテキスト代わりに使うこともできそう。

- ・鳥海山の会は市職員のOBなどもかなり居るので、講演なども対応してもらえる。
- ・鳥海山の信仰に関わる話などはどうか。由利や矢島などの登山口の話、一合目～五合目までの登山ルートの話などを聞ければ生徒は興味がわくかもしれない。
- ・余裕があれば実際に登山ルート（一合目～五合目）を見に行くのもありか。
- ・活動の前半は鳥海山の会の方に話を聞いた上で、鳥海山の魅力としてどの部分を取り上げるかを検討し、それを後半でまとめる形にできれば良い。

◆まとめ

- ・舞／お囃子については基本的に現在の活動を踏襲。ただし人数の制約が厳しいので発表などを行うには3年生の協力も必要。
- ・ひなめぐりガイド作成については、ひなめぐりのイベントを企画した方から話を聞き、ひなめぐりの会場やコースの視察などをした上で、自分達でガイドを作成する。
- ・ジオパークガイド養成については、鳥海山の会のメンバーから鳥海山に関する話を聞き、知識を深める。その後鳥海山についてどの要素を取り上げるかを検討し、まとめる。

b) YBP（矢島ブランディング・プロジェクト）の今年度の状況・活動について

- ・今年度地域創造コースビジネス系の生徒が、秋田県高等学校生徒商業研究発表大会でYBPの研究成果を発表して準優勝した。秋田県代表として8月に山形県で開催された東北大会に出場し、優良賞を獲得した。
- ・今年度のYBPの活動方針としては、「社会貢献」をマーケティングの視点に取り入れていきたい。例えばYBPの商品が売れたときにその売り上げの一部を矢島町の事業所や自然環境保全活動に還元することなどを検討している。これを消費者に積極的にPRすることで、売上の増加、社会貢献の達成、YBPへのブランドイメージの向上とこれに伴う矢島町の認知度向上を狙いとする。実際の企業であれば売上の増加に伴い納税額も増加するため、更なる社会貢献へとつながるマーケティング戦略である。具体的には、現在YBPの商品で使用しているガーデンハックルベリージャムを作っている「くるみの里」への支援や「鳥海山にブナを植える会」への寄付を考えている（先方様の上承済み）。
- ・商品開発は、天寿酒造の酒粕・矢島町の大井豆腐店の豆腐・真坂麴味噌店の味噌を使った商品の開発に取り組んでいる。製造協力は東由利特産物振興会。昨年度の「八塩山豆腐」の第二弾を開発中。商品開発のテーマとしては「持続可能なもの」という点を重視。

◆まとめ

- ・実際に市場調査を実施し、商品の具体を決定していく。
- ・材料の酒粕の提供は天寿酒造で対応可能。

学校運営協議会 WG3 協議報告

第2回 WG 3 協議会 令和元年7月9日（火）16：00～17：00 のまとめ

出席者 委員：松田訓 佐藤真理子 茂木好文
職員：木村ふさ子 高橋晃二 大石敏孝 佐藤協 太田聖矢 渡邊舞子

1. 協議内容

①番楽見学会について

- ・11月17日（日）に実施されるまい一れの講演に、坂之下番楽が入るように松田委員がお願いしてくれた。10：30～12：00の講演になる。8月に入れば決定したかどうかわかるので、バスの手配等学校で早めに動けばよい。
- ・1・2年生で予定しているが、3年生も行くかどうか？それぞれの学年の視点で見ることにはできるはず。定員は150人くらいだが、一般の人もいる。
- ・展示物もあるので、時間を調整して見学して欲しい。鳥海の生徒は現地集合もありなのではないか。

②鳥海ダムについて

- ・国土交通省に講話を「探究」につながる内容でお願いする。
- ・講話の際は、委員の方にも案内をする。
- ・生徒発案のダムカレーをつくり、学校祭で提供するのはいかがでしょうか。
- ・ダムカードをつくる。